

統計功労者表彰受賞者が表敬訪問

行政の基礎となる調査に長年貢献

3/20 経済産業大臣表彰を受けた宮崎ケイ子さん＝松橋町＝、経済産業大臣感謝状を受けた梅田秀子さん、西村宣代さん＝共に小川町＝が市役所を訪れ、浅井正文副市長に報告しました。浅井副市長は「行政の基礎となる調査に協力いただきありがたい」と謝辞。20年以上調査員を続けている宮崎さんは「人との出会いが自分の財産にもなっている」と述べました。このほか、三角町の田端公美まさみさんが県統計協会会長表彰を受賞しました。



左から浅井副市長、宮崎さん、梅田さん、西村さん

「松橋5区防災公園竣工式」

災害時は一時避難所に

3/20 松橋5区防災公園「眞寿公園」しんじゆの竣工式がありました。広さ約475㎡の敷地には、生活雑用水をくみ出せる防災井戸と、座面を外すと調理ができるかまどベンチなどを設置。土地寄付者代表の原美峯さん(72)＝埼玉県さいたま市＝は「地域のためになればと寄付をした。公園の愛称は、両親の名前から1字ずつ取って付けたもの。地震前に亡くなった母が好きだったこの地域の役に立てれば親孝行にもなる」と話していました。



浅井正文副市長から原さん(左)に感謝状の贈呈

宇城市と日本航空が連携協定

人材育成・観光推進・ブランド化を

3/21 市と日本航空が包括連携協定を結びました。県内の自治体で同社と連携協定を結ぶのは初めてです。

この協定により「人づくり」「観光や食に関する情報発信」「宇城市ブランドの醸成」の3つに重点的に取り組んでいきます。市役所で行われた締結式で、同社の溝之上正充九州・山口地区支配人みそのうえ まさみつは「熊本地震からの復興や地域貢献にもつながる。交流人口や物流を増やしていきたい」と話しました。



守田憲史市長と溝之上九州・山口地区支配人(右)

世界ダウン症の日に「みんなの子ども会」

誰もが共生できる社会を目指して

3/21 国連が定める「世界ダウン症の日」に合わせて、ダウン症への理解を深めるイベントが小川町のビジネスサポートセンターで開かれ、約200人が参加。これは、みんなの子ども会(廣岡睦美実行委代表)が初めて開催したもの。イベントでは体験談の発表や紙芝居のほか体操などのプログラムもあり、参加者は交流を深めていました。廣岡さんは「楽しそうな姿を見ることができ、うれしい。多くの人に理解が深まれば」と話していました。



ダウン症のことを分かりやすく説明

おわび 4月号 P.15に誤りがありました。お詫びして次のとおり訂正します。 福島隼斗さん(当時18)

「宇城市自殺予防ゲートキーパー養成研修会」

みんながつながり 命を守る

2/24 「命の番人」とも呼ばれるゲートキーパーを育成する研修会が市役所で開催され、約60人が参加しました。悩んでいる人に気付き、支援が必要な人と相談機関をつなげるなど、適切な対応を身に付けることが目的。

県内で起こった自殺の概要説明とゲートキーパーの役割・心得についての講義や演習が行われました。参加者からは「相手に寄り添うことが大事だと分かった」などの声が聞かれました。



命の大切さについて熱心に話し合う参加者

「市青少年育成不知火地区民会議 料理教室」

ハンバーグ作りで家族の交流

3/16 不知火町内の小学生とその家族を対象にした料理教室が宇城市保健福祉センターで開かれ、6家族14人が参加しました。家族間の交流を深めることを目的に、青少年育成不知火地区民会議が主催。参加者は食生活改善推進員の指導で、レンコンバーグや塩麹みそ汁など4品に挑戦し、出来たての料理をみんなで一緒に食べました。小学生たちは苦戦しながらも楽しんで調理をし、和やかなひとときを過ごしていました。



料理をする子どもたちに頼もしさが感じられました

JR 三角駅で最後の運行を見送り

ありがとう キハ31形

3/16 JR 三角駅で、運行を終了するキハ31形車両を三角線利用促進協議会のメンバーが見送りました。約30年にわたり通勤通学などで利用されたシルバーの車体にブルーのラインが印象的な同車両。あまくさすみ線での運行を終了することを知り、同協議会が企画しました。メンバーらは手製の横断幕を持ち、訪れていた列車愛好家らと共に、最後の運行となった午前8時23分発熊本行きの列車との別れを惜しんでいました。



「長い間お疲れさまでした」と書かれた手製の横断幕

JA 熊本うきが寄付金を贈呈

宇城市の発展のために

3/17 JA 熊本うきの堀幹男代表理事組合長、橋本維清代表理事常務、丸田博雄代表理事常務が市役所を訪れ、守田憲史市長に寄付金を贈呈しました。これは、宇城彩館の売上金の一部を地域貢献のために寄付したものです。

堀組合長が「私たちはこれからも地域とともに歩いていく。地域や市の発展のために役立ててください」とあいさつすると、守田市長は「大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。

◆「まちのわだい」の詳しい内容は、市ホームページで読むことができます。



左から守田市長、堀組合長、橋本常務、丸田常務